

研究タイトル:

組織内恋愛の研究



氏名:	若林晃央 / WAKABAYASHI Akihiro	E-mail:	wakabayashi@fukushima-nct.ac.jp
職名:	助教	学位:	修士(経済学)(京都大学)
所属学会・協会:	社会・経済システム学会、比較文明学会		
キーワード:	恋愛、結婚、不倫		
技術相談 提供可能技術:	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 		

研究内容:

組織内における性愛関係、特に「恋愛」についての研究を行っている。ただし、ここでの「恋愛」とは、性愛感情全般を漠然と指す現代の日常語としての意味ではなく、「舶来の観念」として明治時代に創られた訳語としての「恋愛」であり、19世紀に「宮廷風恋愛」と呼ばれた「フィナモール(fin' amors)」を起源とするものである。

このような「恋愛」概念は、「結婚」のアンチテーゼとして中世ヨーロッパで誕生した概念であり、また文学という非現実世界で誕生した理念型であるため、現実の世界で完璧な「恋愛」現象を見つけることは不可能に近い。しかし、現実の現象の中で「恋愛」の特徴の多くを満たし、「恋愛」の「狂気」を体現した現象として、不倫関係を挙げることができる。

そこで、組織における性愛関係、特に不倫関係に代表される「恋愛」関係に主たる焦点を当てて、以下の研究課題に取り組んでいる。

(1) 組織内恋愛で生産性を上げる組織と下げる組織の違い

古代ギリシアのテバイでは、同性愛者のカップルばかり300人を集めた精鋭部隊(神聖部隊)が創られ、彼らは死を恐れぬ軍事組織となり、当時無敵を誇っていたスパルタ軍を遥かに上回る超人的戦闘能力を発揮した。この神聖部隊の事例や、現代の日本企業における職場不倫の事例から、組織内恋愛の組織にとってのメリットとデメリットを明らかにし、組織内恋愛がどのような時に組織の生産性に貢献し、どのような時に阻害要因となるのか、その条件の解明を目指すものである。

(2) 職場における不倫恋愛の形成プロセス

不倫関係は現代の日本企業にも一定程度存在する現象であるが、彼らはなぜ不倫するのだろうか。不倫の中には、お互いに相手と結ばれることを期待しない一時的な肉体関係が目的のものもあるにせよ、将来的な結婚を期待する独身者と既婚者の不倫も少なからず存在する。本研究の分析対象は後者の事例である。結婚願望のある独身者からすると、相手が既婚者というのは、社会的に非難される行為となるばかりか、相手に離婚しなければ結婚できないなど、障害の多いことは明らかである。にもかかわらず、他にも独身異性はいる中で、容姿などのスペックが特別優れているわけでもない既婚者をわざわざ選択し、不倫恋愛に嵌っていくのはなぜだろうか。本研究はこのような問いに答え、不倫当事者の恋愛感情の誕生と発展のプロセスの解明を目指すものである。

(3) 男女の性愛感情の違い

男女の性愛感情の違いについて、文明史的観点から解明を目指している。

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル:

女性労働の変遷の学際的研究



氏名:	若林晃央 / WAKABAYASHI Akihiro	E-mail:	wakabayashi@fukushima-nct.ac.jp
職名:	助教	学位:	修士(経済学)(京都大学)
所属学会・協会:	社会・経済システム学会、比較文明学会		
キーワード:	メイド、女中、女工、職業婦人、OL		
技術相談 提供可能技術:	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 		

研究内容:

近年、女性の「社会進出」(＝労働市場への進出)が叫ばれると共に、男女の平均賃金格差などの諸問題が取り上げられることが多い。しかし、女性の労働市場の進出は、近年始まったことではなく、産業革命による工業化に端を発するものである。つまり、世界で最初に女性が本格的に労働市場に進出した国は、世界で最初に産業革命を経験したイギリスである。イギリスは、近代組織において男女が性差によって異なる仕事を行う分業体制を確立し、日本を含む世界各国の近代組織が、多少の差はあれ同様の道を歩んできた。近代イギリスに始まり、近代日本、現代日本、そして現在に至る日本組織の管理システムの変遷を研究し、変化のプロセスを明らかにすることで、現在の日本の女性労働問題の背景を明らかにすることが研究目的である。

以上の研究目的の達成のため、以下の女性労働について検討し、以下の研究課題に取り組んでいる。

1. 近代イギリスの女性使用人(メイド)
2. 近代日本の女性使用人(女中)
3. 近代日本の女工
4. 近代日本の職業婦人
5. 第二次大戦期における女性の労働動員
6. 現代(男女雇用機会均等法以前)の日本の女性補助職(OL)

(1) 男女の業務と経営管理体制の変化

時代や国によって女性が就業する動機は必ずしも一定ではなく、純粋に賃金を目的とした職業もあれば、そうではない職業もある。また、職業は社会階級ともしばしば密接に関わっているが、社会階級が異なれば前提となる女性の人生設計モデルも異なり、労働者の人生設計モデルが変われば組織の管理体制も変わらざるを得なくなる。さらに、男女の業務のあり方の変化は、労働空間においても変化をもたらした。本研究では、これらの女性労働を取り巻く様々な要因間の相互関係を明らかにし、管理システムの変遷の全体像の構築を目指すものである。

(2) 女性労働者に容貌が求められるようになった理由

現代の日本企業では、女性労働者には「顔採用」という言葉もあるが、近代イギリスのメイドや近代日本の女工など、近代当初の女性労働者に容貌が求められることはなかった。それが、性的魅力を必要としない業務にもかかわらず、女性にだけ労働者に容貌が求められるようになったのはなぜなのか、この問いに答えることを目指すものである。

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル:

日本のコンテンツの変遷と特徴



氏名:	若林晃央 / WAKABAYASHI Akihiro	E-mail:	wakabayashi@fukushima-nct.ac.jp
職名:	助教	学位:	修士(経済学)(京都大学)
所属学会・協会:	社会・経済システム学会、比較文明学会		
キーワード:	アニメ、ビデオゲーム、非現実		
技術相談 提供可能技術:	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 		

研究内容:

漫画、アニメ、ゲームを代表とする日本のコンテンツ、及びそのビジネスについての研究を行っている。これらのコンテンツは、文学と同様に、いずれも非現実の物語であることを特徴とし、それ故に否定派からは「現実との区別がつかなくなる」などのいわれなき中傷も受けてきた。

漫画やアニメやゲームのコンテンツとしての特徴は、様々なコンテンツの中でもとりわけ非現実性が強いことである。例えば、コンテンツの中には実写映画も含まれるが、実写映画と比べたアニメの特徴は、実写では撮影できない架空の世界を描くことができることにあり、ファンタジーの要素の強い作品が主流をなしてきた。

ところが、近年では、この流れに変化が起きている。漫画やアニメやゲームなどのコンテンツの舞台を巡る、いわゆる「聖地巡礼」が起きたことに象徴される。非現実性の強い物語であれば、架空の世界が舞台となるため、現実世界の中に舞台があることは考えられない。外国ならまだしも、現在の日本という、非現実からは最も遠い世界を舞台とした作品が増えている現状は、コンテンツの有する特性と矛盾する現象である。このような矛盾が生じているという事実は、日本社会の変化を意味する。商品としてのコンテンツは社会の需要に基づいて制作される以上、コンテンツの変化は社会の需要の変化を意味するのである。

このように、非現実を特徴としつつも、矛盾も抱えたコンテンツだが、その変遷を分析することで様々な特徴の解明が可能となる。文学と同様に、コンテンツは非現実でありつつも、現実を映す鏡となるのである。

以下は本研究における主な視点である。

(1)コンテンツの変遷分析を通じた、コンテンツの特徴

(2)コンテンツの変遷分析を通じた、現実の日本社会の変化の特徴

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	